



イオン
新型コロナウイルス
防疫プロトコル

2020年 6月30日発行

11月11日改定

2022年 6月30日改定

<監修>

前世界保健機関（WHO）

食品安全・人畜共通感染症部長

イオン(株)アドバイザー

宮城島 一明

国際医療福祉大学医学部教授

和田 耕治

東京理科大学薬学部教授

堀口 逸子

早稲田大学理工学術院創造理工学部教授

田辺 新一

1. 本プロトコルの目的

イオンは、「お客さま第一」の基本理念のもと、企業市民として地域のお客さまとともに、地域社会の発展と生活文化の向上に貢献することを目指してまいりました

新型コロナウイルスの感染が流行している中で、イオンは地域のお客さまとともに本プロトコルを一時的な取組みでなく継続的に実行してまいります

防疫が生活の一部となる社会を実現し、お客さま及び従業員の健康と生活を守り、お客さまとともに地域社会の「安全・安心」な生活を守ってまいります

イオンは、専門家の科学的根拠に基づく助言と最新の知見により防疫対策を実行します

イオンは、防疫対策を全従業員一致団結して実行します

イオンは、お客さまと一体となり防疫体制を構築します

イオンは、デジタルを活用し十分な換気対策や
距離を確保した施設への変更などに投資します

これらの施策により、お客さまにご不便をおかけすることもございますが、
ご協力なしには防疫体制は実現できません
ご理解、ご協力の程よろしく願いいたします

2. イオンの取り組み

(1) 従業員からの感染リスクを最小にします

- ① 毎日出勤前に体調管理チェックを実施します
発熱、頭痛、嗅覚・味覚異常、鼻水・鼻づまり、咳、のどの痛み、吐き気・嘔吐、呼吸が苦しい、倦怠感、筋肉痛、下痢のような症状のある従業員は出勤しません
- ② 出勤から退勤・帰宅まで飛沫感染防止のため必ず不織布マスクを着用します
- ③ 接触感染防止のため必要に応じ、手洗いと手指の消毒を実施します
- ④ 体調管理を徹底するため店舗・施設の入店（館）時に、検温・手指消毒・不織布マスク着用の確認をします
- ⑤ 店舗・施設の事務所・休憩室には、空気浄化を行うため換気扇やサーキュレーターで常時換気を促進するとともに空気清浄機を設置します。また、換気状況を補捉するため二酸化炭素濃度計の目標値を欧米での基準を参考に800ppm以下とします。更に飛沫感染防止のため必要に応じアクリルボードを設置し、座席も距離（1m～2m）を確保しています
- ⑥ 体調管理や消毒・清掃についてハンドブックや映像を活用し従業員教育を定期的実施します
- ⑦ 新型コロナウイルスワクチンの接種については、従業員教育を実施したうえで3つの取り組みを行って参ります i. 従業員自ら積極的にワクチン接種を受けます ii. 従業員が家族の接種をサポートします iii. イオン店舗が接種会場の場合、積極的にサポートを行います

(2) 施設内での飛沫感染、エアロゾル感染、接触感染リスクを防ぎます

① 施設内換気と空気浄化

i. ショッピングセンター（SC）全体

イオンの施設の多くは、エアコンとは別に機械換気システムを備え一定の割合で施設内の空気が入れ替わるように外気を取り込んでいます

なお、機械換気システムが無い小型店舗においては、出入口を開放します

更に、換気促進を周知するため二酸化炭素濃度計（目標値800ppm以下）で定期的に計測する他、空気の滞留を防ぐためサーキュレーター等で常に空気が流れる環境をつくります

大型SCでは、デジタルサイネージにて混雑度もお知らせしています

ii. フードコート・レストランゾーン

マスクを外して食事を楽しむフードコート・レストランゾーンは、飛沫感染やエアロゾル感染の可能性をより低減するため換気を促進する換気扇等を設置している他、高性能フィルターを完備した空気清浄設備も設置しています

更に、出入口や窓を開けて外気を取り入れるとともにサーキュレーター等で空気の流れをつくります

また、一人当たり毎時30m³以上の換気量を満たしている他、換気促進を周知するため二酸化炭素濃度計（目標値800ppm以下）で定期的に計測しています

上記基準を超える場合は、入場制限を実施します

iii. 映画館・フィットネスジム

閉鎖空間（※注1）である映画館・フィットネスジム等は、ドアの開放やサーキュレーター等を稼働させ換気を促進します。また、空気浄化を目的に映画館専用の大型空調用ウイルス対策システムとして(a) 空気中に漂う細かな埃や浮遊菌を徹底除去する高効率集塵フィルターMERV13フィルターによる捕集効果(b) 紫外線による照射分解効果で空気浄化をする機器の導入を拡大します

※注1－閉鎖空間とは、区切られて窓等が無いいため外気を直接取り入れられない空間

② 混雑時の入場制限

出入口や窓を開けて外気を取り入れるとともにサーキュレーター等で空気の流れをつくります

また、換気促進を周知するため二酸化炭素濃度計（目標値800ppm以下）で定期的に計測する他、一人当たり毎時30m³以上の換気量を満たしています

上記基準を超える場合は、入場制限を実施します

③ お客さまが交錯しないよう入口と出口を設定します

手指消毒を実施いただけるようアルコール消毒液を設置します

④ 接客・レジカウンターに飛沫防止アクリルボードを設置します

必要に応じ手指消毒を実施いただけるようアルコール消毒液を設置します

⑤ 優先対象レジを設定し、高齢者・妊娠中・障がいをお持ちのお客さまが出来るだけ短

時間でお買い物が出来る環境を提供します

⑥ レジ待ち等、お客さまにお並びいただく必要がある箇所には、距離確保の目印（足形マーク）を2m～1m間隔で貼付します。

必要に応じ手指消毒を実施いただけるようアルコール消毒液を設置します

⑦ 飛沫感染防止のためエレベーターの人数制限を行い、分割表示、足形を貼付します

⑧ 接触感染防止のためキッズコーナーの遊び場等は徹底した防疫対策を実施します

⑨ 休憩用ベンチやギャザリングスペースの椅子について、飛沫・エアロゾル感染防止のため距離を確保します

⑩ 飲食時の距離の確保

フードコート・イートインコーナーのテーブルには、飛沫防止アクリルボードを設置します。また、距離確保（2m～1m）の為、座席の間隔をあけます
なお、同居のご家族さまは、1家族1テーブルでご利用可能です

⑪ トイレ・手洗い場（洗面台）

自動水栓を導入推進します（水栓に手を触れる必要がないように）

⑫ 喫煙室につきましては、利用を中止します

⑬ 必要に応じ、販売方法の変更を実施します

パン・総菜のばら売り・裸売りをやめ、接触感染防止のためトングを使用しないようにします

(3) 消毒清掃時の除菌により接触感染を防ぎます

① 拭き上げ清掃を下記のとおり実施します

◆場所別 拭き上げ清掃箇所：使用清掃液・清掃頻度

清掃場所	アルコール 拭き上げ	界面活性剤 拭き上げ	清掃頻度
かご・カート取っ手	○	○	1回/日
エスカレーター手すり	○	○	1回/日
エレベーターボタン	○	○	1回/日
階段手すり	○	○	1回/日
冷凍食品陳列ケース取っ手	○	○	1回/日
セルフレジ アクリルボード	×	○※1	1回/日
会計後に袋詰めをする台 (サッカー台)	○	○	随時
ドライアイス・製氷機取っ手	○	○	1回/日
WAONステーションタッチ パネル	×	○※1	1回/日
ATMタッチパネル	×	○※1	1回/日
自動販売機ボタン	×	○※1	1回/日
お客さまロッカー取っ手	○	○	1回/日
ゴミ箱投入口	○	○	1回/日
椅子・ベンチ・ソファ 肘掛・シート	○	○	2回/日
ガチャガチャボタン	○	○	1回/日
リサイクルBOX投入口	○	○	都度

※1：ATMなどの液晶画面の清拭は「中性洗剤」を使用

(中性洗剤は希釈使用で、多くは2度拭きが必要な処方)

(4) 国が実施する新型コロナウイルスワクチン接種に協力します

- ① イオンと自治体との協定に基づき、イオン各店舗の施設をワクチン接種会場として提供します。ワクチン接種会場においても本プロトコルに基づいた防疫対策を徹底し、ワクチン接種者・被接種者への防疫対策を行います

3. お客さまへ感染防止策へのご協力のお願い

- (1). 入口での手指の消毒と検温（非接触式体温計設置店舗）をお願いします
体調がすぐれないときは、来店をご遠慮ください
- (2). 来店時のマスク着用をお願いする他、飲食時はマスク取り外しを最小限にするようお願いいたします
- (3). エスカレーター、エレベーターでの移動やレジでお並びいただく際は一定間隔の確保をお願いいたします
- (4). 店内混雑時の入場制限へのご協力をお願いします
- (5). お会計時の電子決済やセルフレジのご利用を推奨します
- (6). 必要に応じトイレ・手洗い場（洗面台）で手洗いをお願いします

4. 感染発生時の対応について

館内での二次感染拡大防止のため感染者が判明した時点で、以下の対応を速やかに実施し地域のライフラインとして支障をきたさないようにいたします

(1) 従業員が感染した場合

- ① 従業員の個人情報には十分配慮し、該当区画等の情報を速やかに開示します
開示内容は、該当施設を管轄する保健所へも報告いたします
- ② 該当区画及び立ち寄り個所は、消毒・アルコール清掃を実施します
- ③ 感染判明日から7日間遡り行動履歴調査を行うことで当社として濃厚接触者（※注2）の特定等、感染拡大の可能性の有無を確認します
感染が疑われる濃厚接触者に対し、必要に応じ、PCR検査等を実施します。その場合、感染～発症までのタイムラグを考慮し、濃厚接触から3～5日後に実施し、結果判明までは自宅待機とします
- ④ 施設が広範囲に汚染された可能性がある場合は、全館消毒をします
- ⑤ 一定期間の療養を経て体調回復を確認した上で復職できるよう支援します
また、健康相談等の専門窓口も設けます

※注2ー当社としての濃厚接触者とは、感染が判明してから過去7日間以内に陽性者と接触（1m・15分以上）した従業員を基準としています

(2) お客さまが施設内で感染された場合

- ① お客さまの個人情報には十分配慮し、該当区画等の情報を速やかに開示します
開示内容は、該当施設を管轄する保健所へも報告いたします
- ② 感染拡大を防ぐため、該当区画や立ち寄り個所は、消毒・清掃をします
- ③ 濃厚接触者の特定等、感染拡大の可能性の有無を確認し感染拡大を防ぐ対応をします
- ④ 施設が広範囲に汚染された可能性がある場合は、全館消毒をします

5. 検証について

イオンは、新型コロナウイルス防疫プロトコルを地域のお客さまと共有してまいります
また、専門家による科学的根拠とデジタルの活用により、自社内の新型コロナウイルス対策の取り組みを継続的にモニタリングと検証を実施し、感染防止策をより実効性の高いものにしてまいります

新型コロナウイルス感染に対してワクチン接種を積極的に推進する他、感染の主要因と言われている飛沫・エアロゾル感染対策の様々な取り組みを組み合わせることで「安全・安心」なショッピングセンターの構築に努めてまいります

以上

参考

<新型コロナウイルスとは>

- 新型コロナウイルスは、野生動物に起源をもつとされるウイルスで、ヒトをはじめとする感受性を持った動物の細胞にのみ感染し増殖をします。体外では常温下で一定の時間、生き延びますが、そのあと感染性を失います。
- 新型コロナウイルスに自然に感染したり、新型コロナウイルスワクチンを接種（二回接種タイプのもは二回）すると、同じタイプのウイルスに対する免疫が成立し、数か月間持続します。現在まで日本で使われているワクチンはもともとの武漢型のウイルスをもとに設計製造されたものですが、その後現れた変異型のウイルスに対しても、感染する可能性を減ずる効果、特に、重症化を予防する効果があります。
- 免疫の強さと持続期間には個人差がありますが、時間とともに次第に減弱します。そのため、ワクチンの三回目接種（ブースター接種）により、弱まった免疫を賦活することが奨められています。
- ワクチン接種と並んで、日常ウイルスに曝される機会と量を減らすことは、短期に大量の患者が発生して医療を圧迫することを防ぐので、曝露対策は重要な感染防止策の柱となっています。
- 新型コロナウイルスは、主に鼻や口から出る飛沫や空気中に漂う微細な水滴（エアロゾル）を通じ人から人へ広がります。感染者の鼻水や唾液が付着した表面にさわった手で自分の粘膜に触れ、間接的に感染（接触感染）することもあります。飛沫やエアロゾルを介した感染や接触感染に比べ、食品を通じた感染リスクは無視できると考えられています。
- 2022年6月末現在、世界で約5.4億人の感染者・約633万人の死者が報告され、感染は世界中の国と地域に広がっています。
- 新型コロナウイルスの変異株（突然変異により性質の一部が変化したウイルス）の発生が報告されています。2022年6月現在、日本で優占的なオミクロン株はその前のデルタ株に比べて感染力は強いものの、発症した時に重症化する可能性は低いとされています。上述したように、既存のワクチンには重症化を予防する効果があります。

<経過や症状（オミクロン株の場合）>

- 潜伏期間（ウイルスが体内に入ってから症状が出はじめるまでの期間）は平均3日前後といわれています。多くの場合、発症の2日前から発症日にかけて周りの人への感染力が高まり、以後漸減します。
- よく見られる症状は、一般的な風邪の症状に似ており、発熱、頭痛、鼻水・鼻づまり、咳、のどの痛み、嗅覚・味覚異常、吐き気・嘔吐、呼吸が苦しい、倦怠感、筋肉痛、下痢等です。
- 感染しても症状がほとんど現れない人もいます（不顕性感染）。発症した場合、多くの人は特別な治療を必要とせず、自然に軽快します。重症化し、肺炎と診断された人では呼吸困難の症状が現れ、入院治療が必要です。高齢の人や基礎疾患のある人が発症すると重症化する傾向があります。
- 患者によっては回復後も、倦怠感、呼吸困難、嗅覚の異常などが数か月続くことがあります。一人で悩みを抱え込まず、主治医や自治体等が設置している後遺症相談センターに相談するとよいでしょう。

<どのように感染するのか>

◇飛沫感染とは？（咳・くしゃみ、おしゃべりによる感染）

感染した人の咳・くしゃみ・つば・鼻水など飛沫の中に含まれているウイルスを1-2メートル以内にいる人が口や鼻から吸い込むことにより感染することです。エアロゾル化した微細な粒子は空気に漂い、より遠くに到達されるとされています。外科マスクを正しく着用することにより、症状の有無にかかわらず、自分の呼気を介して他人にウイルスを感染させる確率を減らすことができます。

◇接触感染とは？（手で触れることによる感染）

ウイルスが付着したドアノブ、スイッチ、手すりなど周りの物や場所に触れた手指で鼻や口や目に触れることで、粘膜を通じてウイルスが体内に入り感染することです。飛沫感染に比べ頻度は少ないとされていますが、可能性は無視できません。

◇ウイルスはヒトの体外でどのくらい生きられる？

空気中に放出された飛沫の中のウイルスは数時間しか生存できない（1～2時間毎に半減）ものの、乾燥した固体表面に付着したウイルスは、段ボール紙の表面では24時間以内に死滅する一方、紙幣やガラス、ステンレスやプラスチック、外科用マスクの表面では数日間生き延びるという報告があります。実験で魚や肉に大量のウイルスを塗布したところ、冷凍・冷蔵下でウイルスは数週間生き延びました。したがって、食品や食器の取り扱いには通常通りの衛生管理を順守することが必要です。一般に、高温乾燥の環境でウイルスは早く破壊されやすいことがわかっています。石鹸水での丁寧な洗浄、あるいは70%アルコール（エタノール）の塗布は、ウイルスを効率よく死滅させます。医療用マスクは使い捨て、布マスクは毎日洗浄（60度の温水で洗剤使用）することが必要です。

<検査の種類>

◇新型コロナウイルスの検査には、大きく分けて、①PCR検査、②抗原検査があります。PCR検査はウイルス遺伝子の存在の有無を調べるもので、最も初期の感染をとらえられる鋭敏な検査ですが、感染力のないウイルスの破片にも反応するので、疾病回復期にはPCR検査が陽性であっても感染力はない場合もあります。また、PCR検査が陰性であるということは、検体採取時にウイルスがなかったことを意味し、PCR検査の結果が判明した日（検体採取日の翌日以降）にウイルスがないことを担保するものではありません。抗原検査はPCR検査よりも安価で手軽にでき、一時間以内に結果が判明するという利点がありますが、ウイルスが活発に複製されている期間にしか陽性にならないという欠点があります。その他、数週間以前にウイルス感染し、またはワクチンを接種して免疫が賦活していることを証明する抗体検査があります。

◇検体のウイルスがどの変異株に属するかはウイルスの遺伝子を詳しく調べる必要がありますが、これは一部の研究施設でしか行われておらず、結果判明まで時間がかかります。

<免疫の獲得と維持>

◇海外の製薬会社により新型コロナウイルスに対するワクチンが開発され、数社のワクチンが日本でも認可されています。輸入ワクチンのほか、一部は国内でも委託生産されています。ファイザー社とモデルナ社のワクチンはRNAワクチン、アストラゼネカ社のワクチンはウイルスベクターワクチンで、作用機序は若干異なりますが、いずれも一定の間隔をあけて二回接種することが原則です。効果には、感染自体を防ぐ効果と、感染しても発症や重症化を防ぐ効果の両方があります。二回目の接種には一回目の接種と同じワクチンを打つのが原則です。三回目接種では一回目と異なるワクチンの使用が可能です。

◇海外でワクチン接種をして日本に入国する際は、上記三社のワクチンのほか、ヤンセン社とバーラト・バイオテック社のワクチンも、一・二回目の接種ワクチンとして日本政府が接種歴に加えることを認めています。

◇ワクチン接種や自然感染によって誘導される免疫には液性免疫（血漿中に産生された抗体による免疫）と細胞性免疫（免疫細胞が抗原を記憶することによる免疫）があり、後者は前者よりも長続きするといわれていますが、よくわかっていません。今後の調査研究によって明らかになると思われま

◇すでにコロナウイルスに感染した人で、感染回復からワクチン接種までの望ましい間隔を知りたい場合、医師に相談しましょう。

◇変異株の出現とワクチン接種の齟齬を防ぐため、2023年以降、汎用性のある新たなワクチンが開発投入されるのか、既存のワクチンを使い続けるのか、また、特定の変異株に特化したワクチンを定期的に接種することになるのか、まだ見通しが立っていません。

新型コロナウイルスに関するQ&Aは厚生労働省のウェブサイトを確認しましょう。

イオン統一ピクトグラム（一例）

□キープディスタンス



□手指の消毒



□マスク着用



□館内換気



□体調がすぐれない



□会話は控えめ



□黙食

